

フランス日記5月下旬分

記録:宮本雅弘

学校が終わりに近づき、クラスは、バカロレアへの準備に入り、色々な事柄に最後という言葉がつくようになりました。

色々なものに終わりを告げなければいけない現実には多少の戸惑いはありますが、必ず戻ってくるという強い想いを胸に、今を過ごしています。

まだ1ヶ月と少し残ってはいますが、たぶん、本当にあつという間です。去年の8月23日に出発したことが昨日の様に鮮明に思い出せます。

このフランスでの生活は、後悔だらけ。もっとやれたのに、ああすれば良かった、この選択肢の方が良かったんじゃないか、何であんな事をこの人に言ってしまったのか、数えれば切りがありません。

なにより、僕の夢はまだ50%も達成されていません。フランス全国大会個人戦で優勝出来なかった、フランス語も、大学でフランス人と共に学べるレベルではありません。全てにおいて、まだやれるという余力の様なものが残ってしまった状態です。

だからこそ、僕はフランスへの個人での留学を今は熱望しています。何故なら、それが今の僕にとってのベストだと考えているからです。

ロータリークラブという組織は、とても素晴らしいチャンスを与えてくれました。だからこそ、今僕は色々な選択肢を考える事が出来るし、それを行動に移すことが出来ます。感謝してもしきれません。日本に帰れば、大学入試への勉強が始まります。しかし、今の僕にとっては、この留学生活より苦しかったことも楽しかったないもないので、何の心配もしていません。

残りの留学生生活を悔いなく一生懸命に頑張ります。

今月は何もすることが無かったので、こんな感じになってしまいました。

長々と駄文ですいませんでした。